

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q 相馬市で採れた米について、これまでの検査ではどのような結果が出ていますか？

A 相馬市産を含め福島県内で生産された全ての米に対し、食品の基準値（食品 1 kg あたりセシウム 134・137 の合計が 100 ベクレル）を超えるものがないか、全量全袋調べることが生産者に義務付けられています。

市内では、3 カ所の検査場で平成 24 年度から今までに約 460,005 袋の検査が行われましたが、これまでに基準値を超えた米はありません。また、平成 26 年度に検出限界値未満である米は全体の 99.9% でした。ごく微量にセシウムが検出される米袋の数も年々減少しており、今年の新米からのセシウムの検出は昨年よりも更に少なくなることが予想されます。微量に検出といっても、1 kg

あたり、セシウムが 100 ベクレル含まれる米を年間で 500 kg 以上食べて初めて、1 ミリシーベルト程度の被ばくとなることから、現状の相馬市産の米が十分に安全性を維持していることがお分かりになるのではないかと思います。

このような結果を実現するために、土壌中に十分なカリウムを含んだ肥料を用いる対策が行われています。野菜の成長にはカリウムという栄養素が必須ですが、カリウムはセシウムと性質が非常に似通っています。カリウムを多くすることで、セシウムを取り込まないようにブロックしているのです。

このような対策に加え、店舗に流通している米は全量全袋検査を行い、基準値が超えていないことが確認されているものですので、安心して食べていただければと思います。

●市の全量全袋検査の結果（一般食品の基準値：1 kg 当たり、セシウム 134・137 の合計が 100 ベクレル）

	測定数（袋数）	内訳			
		25 Bq /kg 未満 (検出下限値未満)	25 ～ 50 Bq /kg	51 ～ 75 Bq /kg	76 Bq /kg 以上
平成 24 年度	147,192 袋 (100%)	146,563 袋 (99.58%)	609 袋 (0.41%)	20 袋 (0.01%)	0 袋
平成 25 年度	151,102 袋 (100%)	150,717 袋 (99.74%)	381 袋 (0.25%)	4 袋 (0.01%未満)	0 袋
平成 26 年度	161,711 袋 (100%)	161,692 袋 (99.99%)	19 袋 (0.01%)	0 袋	0 袋

出典：▽市ホームページ ▽データでなっとく放射線
▽ふくしまの恵み安全対策協議会ホームページ

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの 放射性物質測定結果

●8月分

▽測定件数 測定件数 52 件
(内訳：野菜 40 件、果実
7 件、魚 2 件、新米 1 件、
その他 2 件)

▽基準値を超えた食品 0 件
●相馬市で出荷制限などを受けている食品(9月4日現在)
▽クリ▽くさそてつ(こごみ)
▽たけのこ▽ふきのとう
(野生)▽ぜんまい▽たらの芽(野生)▽原木しいたけ(露地)▽原木なめこ(露地)▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど(野生)▽牛(県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く)

※最新の情報は、福島復興ステーションホームページ内の「農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング結果【詳細】」でご確認ください。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-kekah.html>

◎これまでの食品の検査結果(相馬市ホームページ)
<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●問い合わせ先 放射能対策室 (☎ 37 2 2 7 0)